

財務レビュー

経営成績の概要

2023年3月期における太陽誘電を取り巻く経営環境は、世界景気は緩やかな持ち直しの動きが見られたものの、地政学リスクの増大などによる原材料費、物流費の上昇や、新型コロナウイルス感染症対策として一部地域で実施された大規模ロックダウンによって社会経済活動が停滞した時期がありました。先行きについては、国際情勢、世界的な金融引き締めが進む中での金融資本市場の変動や需要環境の動向を注視する必要があります。

太陽誘電は、中期経営計画2025に掲げた目標の実現に向けて自動車、情報インフラ・産業機器を中心とした注力すべき市場の売上比率を50%に高めることを目指しています。さらに、ハイエンド商品、高信頼性商品を中心とした高付加価値な電子部品を創出し、主力事業の積層セラミックコンデンサのさらなる成長に加え、インダクタと通信デバイスを強化してコア事業として確立していきます。また、需要拡大に対応するための継続的な能力増強に加え、環境対策やIT整備に向けた積極的な取り組みを実施し、5年間で3,000億円規模の設備投資を計画しています。

これらの結果、2023年3月期の連結売上高は、前期比8.6%減の3,195億4百万円となりました。

なお、2023年3月期における期中平均の為替レートは1米ドル134.20円と前期の平均為替レートである1米ドル111.56円と比べ22.64円の円安となりました。

販売費及び一般管理費

2023年3月期の販売費及び一般管理費は、554億38百万円となり、前期に比べ13億24百万円減少しました。販売費及び一般管理費の主要な項目は、従業員給料手当139億71百万円、研究開発費126億78百万円、などになります。この結果、営業利益は前期比53.1%減の319億80百万円となりました。

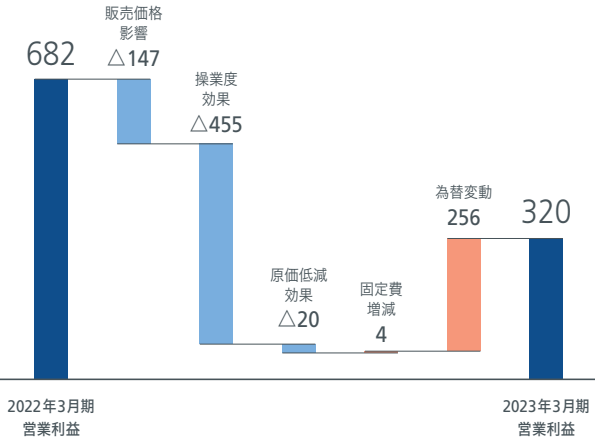
営業外損益

2023年3月期の営業外収益は前期に比べ8億24百万円減少し、37億69百万円となりました。一方、営業外費用は支払利息、支払補償費の増加などにより、前期に比べ2億96百万円増加し、9億16百万円となりました。この結果、経常利益は前期比51.7%減の348億32百万円となりました。

特別損益

2023年3月期の特別利益は、前期計上した投資有価証券売却益が当期は発生しなかったことなどから、前期に比べ5億17百万円減少し、1億71百万円となりました。特別損失は減損損失が大幅に減少した一方で、固定資産除売却損が増加し、子会社のエルナー株式会社にかかる独占禁止法関連損失を計上したことから、前期に比べ28億94百万円増加し、39億2百万円となりました。この結果、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比57.3%減の232億16百万円となりました。

2023年3月期営業利益増減要因
(億円)



財政状態の概況

資産

2023年3月期末における総資産の残高は5,034億62百万円となり、前期末に比べ289億40百万円増加しました。流動資産は82億11百万円減少しており、主な要因は、商品及び製品の増加51億91百万円、仕掛品の増加26億42百万円、受取手形及び売掛金の減少162億12百万円、現金及び預金の減少53億73百万円です。また、固定資産は371億51百万円増加しており、主な要因は、有形固定資産の増加356億53百万円です。

負債

2023年3月期末における負債の残高は1,849億84百万円となり、前期末に比べ107億48百万円増加しました。主な要因は、1年内返済予定の長期借入金の増加139億22百万円、短期借入金の増加100億円、未払金の増加91億22百万円、未払法人税等の減少124億16百万円、支払手形及び買掛金の減少98億15百万円です。

純資産

2023年3月期末における純資産の残高は3,184億78百万円となり、前期末に比べ181億92百万円増加しました。主な要因は、親会社株主に帰属する当期純利益232億16百万円と剰余金の配当105億91百万円による、利益剰余金の増加126億24百万円、および円安等の為替影響による為替換算調整勘定の増加48億40百万円です。

キャッシュ・フローの状況

2023年3月期の営業活動によるキャッシュ・フローは394億60百万円の収入（前期比41.4%減）となりました。主な要因は、税金等調整前当期純利益311億2百万円、減価償却費349億3百万円、売上債権の減少額195億56百万円、法人税等の支払額230億61百万円です。

投資活動によるキャッシュ・フローは604億38百万円の支出（前期比19.4%増）となりました。主な要因は、固定資産の取得による支出633億38百万円です。

財務活動によるキャッシュ・フローは144億85百万円の収入（前期は147億11百万円の支出）となりました。主な要因は、短期借入金の増加額100億円、長期借入れによる収入200億円、長期借入金の返済による支出40億49百万円、配当金の支払額105億73百万円です。

以上の結果、2023年3月期末における現金及び現金同等物は、前期末に対して44億85百万円減少し、841億24百万円となりました。

2023年3月期末の外部からの資金調達は、短期借入金302億円、1年内返済予定の長期借入金179億58百万円、長期借入金507億77百万円からなっています。借入金は原則として日本において固定金利で調達しています。さらに、財務の安定性のため期間3年、300億円のコミットメントライン借入枠を設定しておりますが、2023年3月末現在未使用です。

太陽誘電は、健全な財務状態と営業活動によりキャッシュ・フローを生み出す能力を有しており、太陽誘電の成長を維持するために将来必要な運転資金および設備投資資金を調達することが可能と考えています。